

7 日本の中世から近世にかけての修行道

【全4回】／開催方法：ハイブリッド

みの わ けん りょう
袁 輪 顕 量

東京大学大学院
人文社会系研究科
教授



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：7月29日)

【日程・時間】【全4回】

8月2日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

8月3日(日) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

日本における仏教の修行道をテーマに講義を続けているが、本年は中世から近世初頭にかけての状況を考察する。現在の日本の仏教界でその主力になるのは、曹洞宗と浄土真宗である。この二つの宗における修行を、その目的論的な視点から考えたい。また、日本独自の視点も加えて、修行が捉えられるようになっていくのが中世後半期以降であるように思う。

修行に直接に関連するのは、禅宗と浄土教であるが、今はあまり修行という視点からは顧みられない伝統に触れてみたい。

- 第1講 日本中世における修行道_道元・夢想疎石
- 第2講 日本中世における修行道_虎関師錬など
- 第3講 日本中世における修行道_時宗の念仏
- 第4講 日本近世における修行道_鈴木正三・盤溪禅師

【参考書】

- ①『仏教瞑想論』
著者：袁輪顕量 出版社：春秋社 出版年：2008
- ②『日本仏教史』
著者：袁輪顕量 出版社：春秋社 出版年：2015